日本赤十字社 奉仕団

奉仕団とやま

発行
赤十字奉仕団
富山県支部委員会
富山市飯野26－1
日本赤十字社富山県支部内
電話（076）451－7878
年１回発行

日本赤十字社富山県支部 創立130周年記念大会

11月6日、富山県民会館にて日本赤十字社富山県支部創立130周年記念大会を開催し、赤十字奉仕団員513人を含む1000人余の赤十字関係者が参加されました。

第1部の式典では、石井隆一支部長（県知事）が「この130周年を契機として決意を新たに人道と博愛の精神を実践し、県民のみなさまの幸せのため全力を尽くします」と式辞を述べ、大塚義治社長からは、富山県の赤十字奉仕団が行う『ひとり暮らし高齢者訪問』といった奉仕活動への労いと、奉仕団員のみなさまからお寄せいただくご支援とご協力に対する謝辞を含む挨拶がありました。また、社資や業務に功労のあった方々に対し、日本赤十字社有功章、130周年記念感謝状などが1115の個人・団体・法人に贈られました。

第2部では、映画監督でキャメラマンの木村大作氏による講演「誰かが行かねば道はできない」がありました。立山連峰の雄大な景色や富山の自然に魅了された木村氏からは、映画のメイキング映像や撮影秘話が披露されました。ダイナミックでユーモア溢れる講演は、時には会場全体を笑いで包みこむなど大いに盛り上がりました。

富山県支部の設置は、明治22年4月20日のことです。明治、大正、昭和、平成、令和という5つの時代を駆け抜ける中で、赤十字は戦争や災害など何度も深刻な困難に直面しましたが「苦しんでいる人を救いたい」という思いを胸に、揺るがぬ信念と献身的な努力、支援者のみなさまによる多大なるご協力によってこれを乗り越えてきました。これからも、みなさまのご協力を得ながら、寄せられる期待と信頼に応えられるよう日々の活動に取り組んでいきたいと思います。今後ともご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

（県支部）

受章者代表として

新庄北赤十字奉仕団（富山市）
委員長　土肥　靖子

日本赤十字社富山県支部が創立130周年を迎えられ、その記念大会に参列のみならず、その席で奉仕団代表として感謝状を受ける大役をいただきました。大塚社長に見守られ、凛とした静寂の中で石井支部長から感謝状を受け胸に迫るものを覚えました。

高校生の折、JRC活動に触れたことが私をここまで赤十字ボランティア活動へ引っ張ってくれたと思っています。今では「私のライフワークは赤十字である」との思いを強くしています。奉仕団員の一人として赤十字が多くの人との出会いを導いて下さり、今日まで健康に元気でいられることに深く感謝したいと思います。

これらを胸に「人道・博愛」の精神のもと、世界の平和を願いつつ精進してまいります。どうぞこれからもよろしくお願いいたします。

表彰を受けられた方々おめでとうございました。今後益々のご活躍をお祈り申し上げます。

業務功労

●銀色有功章（継続15年）
【奉仕団】
窪赤十字奉仕団（氷見市）
【奉仕団委員長】
北田　祥子（南砺市上平赤十字奉仕団）
森　節子（窪赤十字奉仕団）（氷見市）
吉田とし子（新湊中央赤十字奉仕団）（射水市）

●金枠感謝状（継続10年）
【奉仕団委員長】
千森　孝行（富山赤十字災害救援奉仕団）
武田東洋子（南砺市井波赤十字奉仕団）

●銀枠感謝状（継続5年）
【奉仕団】
新庄北赤十字奉仕団（富山市）
【奉仕団委員長】
石須　大雄（伏木赤十字奉仕団）（高岡市）
市山　恭子（立野赤十字奉仕団）（高岡市）
鬼原　弘子（入善町赤十字奉仕団）
黒畑　喜昭（新庄赤十字奉仕団）（富山市）

社資功労

●紺綬褒章
藤塚　幸雄（砺波市赤十字奉仕団）

●日本赤十字社社長感謝状
小西　広一（新庄北赤十字奉仕団）（富山市）
田辺　惠子（高岡中央赤十字奉仕団）
氷見　治代（ともしび赤十字奉仕団）（富山市）

●金色有功章
大江ニオヱ（山室赤十字奉仕団）（富山市）
土肥　靖子（新庄北赤十字奉仕団）（富山市）
永森夫佐恵（山室赤十字奉仕団）（富山市）
山口　康司（富山県無線赤十字奉仕団）（富山市）

●銀色有功章
岡﨑　暁子（八尾町赤十字奉仕団）（富山市）
北田　祥子（南砺市上平赤十字奉仕団）
木下智香子（南砺市井波赤十字奉仕団）
武田東洋子（南砺市井波赤十字奉仕団）
中島　隆敏（伏木赤十字奉仕団）（高岡市）
古市　義雄（伏木赤十字奉仕団）（高岡市）
堀井　芳美（八尾町赤十字奉仕団）（富山市）
森越美智子（十二町赤十字奉仕団）（氷見市）
富士コン㈱（福岡町赤十字奉仕団）（高岡市）

※社資功労につきましては、赤十字奉仕団員並びに奉仕団幹旋の受章者のうち、ご承諾をいただいた方のみ掲載しております。

（H31・2・1～R2・1・31）

（敬称略）（五十音順）

令和元年度　富山県支部扱い義援金・救援金

※金額及び件数は1／31〆

国内	●東日本大震災義援金	36件	786,844円
	●平成28年熊本地震災害義援金	18件	197,704円
	●平成29年７月５日からの大雨災害義援金	2件	12,000円
	●平成30年７月豪雨災害義援金	24件	370,709円
	●平成30年北海道胆振東部地震災害義援金	64件	709,678円
	●令和元年８月豪雨災害義援金	9件	312,106円
	●令和元年台風第15号千葉県災害義援金	20件	2,272,795円
	●令和元年台風第15号東京都義援金	6件	277,500円
	●令和元年台風第19号災害義援金	363件	25,281,607円
海外	●中東人道危機救援金	1件	5,000円
	●バングラデシュ南部避難民救援金	2件	25,000円
	●2019年モザンビーク・サイクロン救援金	1件	5,000円
	●令和元年度ＮＨＫ海外たすけあい救援金	584件	6,118,144円
	合計	**1,130件**	**36,374,087円**

（奉仕団からの報告があった場合を除き、郵便振替を利用され日赤本社や被災地支部に直接送金された分の件数・金額は、この記載に含まれておりません）

ペンのしずく

令和に入り、初めてのお正月も雪のない穏やかな日が続きました。

今年度の紙面は、富山県支部創立130周年記念大会、奉仕団研修会、全国赤十字大会で表彰を受けられた藤塚さんの感想、我が団の紹介など参考にすべきことが多々あります。

昨今、新型コロナウィルスが話題となっており、防災と同様、感染症予防にも留意しなければと思っています。

ご寄稿いただいた皆さまに心から感謝とお礼を申し上げます。

（深川記）

編集委員
岡﨑　智子　深川　紀子
金森　辰美　中西　順子
石須　大雄　鬼原　弘子
任海　哲朗　朝日田鶴子
坂井　繁之　塚本亜由美

令和2年度県支部奉仕団事業計画

4月　赤十字奉仕団富山県支部委員会（富山市）
5月　赤十字運動月間キャンペーン（広報紙・ティッシュ配り）
　　在宅ひとりくらし高齢者訪問（BOXティッシュ）
　　全国赤十字大会（東京都）
　　赤十字奉仕団富山県支部委員会常任委員会・研修部会(県支部)
　　赤十字奉仕団中央委員会（本社）
6月　第3B青年赤十字奉仕団代表者及び担当者会議（静岡県）
7月　愛の血液助け合い運動月間
　　赤十字奉仕団研修会（富山市）
9月　奉仕団活動推進会議（東京都）
10月　赤十字奉仕団研修旅行（九州）
　　赤十字奉仕団富山県支部委員会常任委員会（県支部）
11月　赤十字奉仕団委員長会議（立山町）
　　第3B赤十字奉仕団委員長並びに担当者会議（三重県）
12月　NHK海外たすけあい
　　赤十字奉仕団研修部会役員会（県支部）
1月　赤十字奉仕団とやま編集委員会（県支部）
　　赤十字奉仕団富山県支部委員会常任委員会（県支部）
2月　赤十字奉仕団とやま編集委員会（県支部）
　　赤十字奉仕団支部指導講師研修会（本社）
3月　赤十字奉仕団とやま（第36号）発行

＊第3B（第3ブロック：富山・石川・福井・岐阜・長野・愛知・静岡・三重　8県で構成）

令和元年 全国赤十字大会 開催

5月22日、日本赤十字社は明治神宮会館で新名誉総裁雅子皇后陛下ご臨席のもと令和初の全国赤十字大会を開催しました。この大会では、赤十字活動にご功労のあった個人などに対し名誉総裁御手ずから有功章が授与されます。

今年度の大会にあたり代表受章者となられ、名誉総裁から金色有功章をお受けになられた藤塚幸雄さんに、今回ご寄稿いただきました。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

凡そ60年前、某校に勤務していた時でした。校下の高学年児童も協力する〝米一握り運動〟がありました。集まった物資の配分日、三拝九拝して物資を受け取り、顔を隠すようにして帰っていく受援家庭の人々。この姿を見送った時、自分の生い立ちと重なって目頭が熱くなりました。

この感動を心に秘めて10年目。日赤本社の青少年赤十字指導者講習を受けさせてもらいました。そこで初めて本当の赤十字を知ったのです。「人は、思いや立場は違っていても皆同じ人間同士。互いに支えあって生きるのが当然」目から鱗が落ちました。

以来、学校教育に青少年赤十字活動を取り入れて赤十字教育を進めました。退職後は、青少年赤十字賛助奉仕団や地域奉仕団のメンバーとなり「体で奉仕できなくても心で奉仕できる」の思いをもって赤十字と関わってきました。〝心で奉仕〟それは、僅かずつのお金を貯めては寄付するのです。今その累積はかなりの額になりました。

全国赤十字大会が開催された折、東海・北陸ブロックの代表受章者に選ばれ、この度日本赤十字社の名誉総裁となられた皇后陛下から有功章をいただきました。

赤十字と関わって凡そ50年。この日の感動を胸に、力の続く限り奉仕活動に励みたいと思っております。

赤十字奉仕団富山県支部指導講師
富山県青少年赤十字賛助奉仕団
砺波市赤十字奉仕団
藤塚　幸雄

NHK海外たすけあい 募金活動

小矢部市赤十字奉仕団
委員長　中西　順子

12月3日に、例年通りNHK海外たすけあい募金活動を行いました。4つの班ごとに、2人ずつ交替で夕方まで行いました。Aコープおやべ店とピアゴ小矢部店の店頭2ヵ所ずつで、買い物にいらっしゃる方々に、「募金にご協力お願いします」と、呼びかけをしました。2店舗のご理解とご協力で、のぼり旗を立てて募金箱を設置して店内での呼びかけを行うことが出来ました。

団員の笑顔での声かけにより、買い物にいらした大勢の方々が快く募金をして下さり、本当に感謝でした。当日は例年ほど寒くなく、ホッカイロと温かい飲み物を用意しましたが、出番がありませんでした。昨年は、日本各地で災害が多く発生していたので、何故海外への募金？　と思われないかと役員間で少々心配しておりました。幸い誰一人そんなことは仰いませんでした。「ご苦労様です」「寒いのに大変ですね」と募金してくださいました。皆様、本当にありがとうございました。

翌日、市役所にて役員で募金箱を開けて集計作業を行い、募金総額はおよそ10万円でした。

ご多分にもれず小矢部市赤十字奉仕団も高齢の団員が多数ですが、事故も怪我もなく無事に募金活動を終えることが出来ました。

富山県赤十字奉仕団 6つの統一活動

①在宅ひとりくらし高齢者訪問活動
②社資募集、赤十字運動月間キャンペーン協力
③災害時における救援活動
④献血推進活動
⑤NHK海外たすけあい
⑥赤十字講習の受講

この6つの活動は、富山県内の地域奉仕団が行う統一活動です。この他、地域のニーズに合わせた活動を各団で行いましょう。

富山青年赤十字奉仕団が再結成されました

4月20日、平成23年から休団していた富山青年赤十字奉仕団が15名の団員で8年ぶりに再結成されました。

団員からは、「(これまでは個人ボランティアとして活動していたので)これから団員みんなで一緒に活動をしていくことがとても楽しみ」や「ボランティアを通して人の役に立ち、喜んでもらえるような活動を考え、楽しく活動していきたい」といった声が聞かれました。

メンバーは、社会人、大学生、専門学校生と様々ですが、子ども食堂や乳児院、富山型デイサービス施設などで活動を行い、「貧困」や「健康」「福祉」といった社会課題に向き合うとともに、県内の青少年赤十字や地域奉仕団などとも連携した活動を行いたいと思っています。これからどうぞよろしくお願いします。

赤十字奉仕団富山県支部委員会 役員の紹介

任期2年：平成31・令和2年度

委員長　岡崎　智子(富山地区)
副委員長　野村　絹子(高岡地区)
〃　深川　紀子(新川地区)
〃　山田　順子(砺波地区)
〃　千森　孝行(特　殊)
常任委員　土肥　靖子(富山地区)
〃　金森　辰美(高岡地区)
〃　出戸端淑子(新川地区)
〃　中西　順子(砺波地区)

名称変更のお知らせ

このたび、奉仕団名の変更がありましたので、お知らせします。

〔変更内容〕
(旧)富山県アマチュア無線赤十字奉仕団
←
(新)富山県無線赤十字奉仕団

〔変更日〕
令和元年11月6日

活動推進奉仕団報告

旧上新川・婦負郡　赤十字奉仕団研修を行って

大沢野赤十字奉仕団（富山市）
委員長　柿岡　和子

涼しくなり始めた9月24日、大沢野・大山・八尾・婦中・細入・山田の赤十字奉仕団による初めての研修会を開催しました。

午前は、赤十字とボランティア、富山県赤十字奉仕団6つの統一活動について、スライドを交えて分かりやすく説明し理解を得ました。炊き出しではおはぎを作り、お昼にアルファ米の五目ご飯と一緒に美味しくいただきました。午後は、我が団の活動紹介と、「楽しみながら学ぼう　赤十字の豆知識」として赤と白のビーズで赤十字バッジ、新聞紙でスリッパ、包装紙で菓子皿をそれぞれ作り、紙芝居やレクリエーションをして楽しみながら有意義な交流を行いました。

参加した団員からは、「他の団員さんと交流できて嬉しかった」や「新しい見直しがなかなか出来なかったが、今回の研修でみなさんから理解を得られた」「委員長さんたちとの連携がとれて刺激になった」「出るのが嫌だと思っていたけれど、出て良かった」などの感想が聞かれました。一人でも多くの団員が赤十字を理解するため、この研修会の継続と次回の開催を期待しています。

また、他の奉仕団の委員長や今回ホスト役となった八尾奉仕団の役員のみなさんが、与えられた分野で懸命に取り組んでおられる姿はボランティア精神に溢れていて、「人のために役に立てる自分になりたい」とより一層強く感じました。私自身、優しく明るく楽しくを心構えとしていますが、団員に安心してもらえる存在になれるようこのような機会を活用しより一層努力を重ねたいと思うとともに、この研修会をきっかけにそれぞれの奉仕団が夢を抱き、未来に向かっていくような新たな活動力が生まれてくれたらと思いました。

一人暮らし高齢者へ　手作り弁当を届ける

大江赤十字奉仕団（射水市）
委員長　岩脇　明美

地元の小学校のボランティアクラブと赤十字奉仕団による共同活動として、一人暮らし高齢者と父子家庭のご自宅を訪問し、奉仕団員による手作り弁当をお渡しする活動を毎年12月に行っています。訪問後は、一緒に活動をした小学生と奉仕団員が食事をしながら交流会を行っています。

今年は、例年よりも多い18名の子どもたちが参加し、校長先生の計らいで、折り鶴を持参してくれました。高齢者は、かわいい折り鶴を嬉しそうに笑顔で受け取っておられました。

メニューは、地産地消を心掛け、奉仕団員みんなで考えます。団員が持ち寄ったお米や手作り野菜など、盛りだくさんのお料理がぎっしりと詰め込まれた、栄養満点で美味しいお弁当になり、子どもたちも美味しそうに食べてくれました。

今年度は、活動推進奉仕団として指定され、団員の取り組む姿勢が前向きになったと感じました。また、学校の中では体験できない、生きた道徳の授業として、小学校からは高い評価をいただき、保護者も快く同意をして下さっています。大江赤十字奉仕団発足以来継続してきたこの活動をこれからも地道に続け、地域の子どもたちに共助の心を育めるよう取り組んでいきたいと思います。

令和元年度　富山県赤十字奉仕団研修会

6月2日と30日の両日、赤十字奉仕団研修会を開催しました。

今年度は、「災害」がテーマ。午前の炊き出し実習では、ハイゼックスの口の閉じ方（輪ゴムを使用しない方法）を新たに学ぶとともに、おはぎ作りに挑戦しました。午後の災害時高齢者生活支援講習では、災害や防災への心構え、赤十字が行う救護活動など、クイズを交え楽しく学びました。

☆富山・新川地区、特殊対象
開催日　6月2日(日)
場　所　日本赤十字社富山県支部
参加者　25団65人

☆高岡・砺波地区対象
開催日　6月30日(日)
場　所　福岡防災ステーション内
　　福岡防災センター（高岡市）
参加者　23団58人

●「おはぎ」レシピについて

日本赤十字社は、全国の赤十字奉仕団から炊き出しのレシピを募集し、平成28年2月に「赤十字奉仕団災害時炊き出しレシピ集」を発行しました。

レシピ集には、82点のレシピが掲載されており、そのうちの4点は富山県内の赤十字奉仕団が応募したものです。今回挑戦した「おはぎ」のレシピは南砺市城端赤十字奉仕団が考案し応募したもので、研修会用に少しアレンジを加えました。

【午前「炊き出し」の感想】

6月30日に福岡防災センターで行われた研修会は、前日から続く大雨が降りやまず、室内での開催となりました。

午前の「グループ別研修」は、炊き出し実習。ハイゼックスの閉じ方に、輪ゴムを使用した方法と袋を直接縛る方法に区別をしてカレーとおはぎを作りました。この研修は、炊き出しの統一を図る目的で行われました。今後は、地域の防災訓練で生かしていきたいと思います。

おはぎのレシピは富山県から応募されたもので、好評とのことです。改めて災害時での水の大切さ、リーダーの重要性、用具の工夫等を実感しました。

これまで被災未経験の幸せ、災害への不安と恐ろしさを考えた一日でした。

伏木赤十字奉仕団（高岡市）
柳　まち子

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【午後「災害時高齢者生活支援講習」の感想】

赤十字奉仕団の一員として活動しながらも、心のどこかに、富山県は災害が少ない県という意識がありました。しかし、近年の大きな地震は、過去の地震から偶然にも170年前後で起きているものが多く、富山県でも、飛越地震から160年経過しているという話を聞き、これは他人事ではないぞという思いを強くしました。

予期せぬ災害を100％防ぐことは難しいけれども、「減災」することはできます。そのためにも、地域で助け合う「共助」が大切な役割を果たすということ（阪神大震災で一番多くの人命救助をしたのは、地域の住民だそうです）を知りました。特に災害の影響をより強く受ける高齢者や乳幼児には、発生時の声かけや避難場所での心的肉体的ストレス軽減のためのきめ細かな支援が必要だということを再認識しました。

この研修は、奉仕団の一員としての役割を立ち止まって考えるきっかけとなりました。

上市町赤十字奉仕団
吉中　明美

《我が団の紹介》

朝日丘赤十字奉仕団（氷見市）

委員長　金森辰美

富山県の西北端に位置する氷見市。「氷見ぶり」「氷見いわし」で有名な氷見の青い海を臨む市街地に私たちの朝日丘地区が有ります。設立は昭和52年。当初は婦人会活動と並行して活動を行っていました。平成19年より「朝日丘赤十字奉仕団」単独で再スタートを切りました。現在は男性数名を含む総勢65名で活動しています。

主な活動としては、赤十字運動月間や街頭献血、ＮＨＫ海外たすけあい募金の協力、ひとりくらし高齢者訪問、地域の防災訓練での炊き出し、ＡＥＤの講習会も毎年繰り返し実施しています。このほか年３回の資源回収。年１回の研修会では、近年激化している災害に備えて防災アドバイザーの講座を開くなど学習面に力を入れる一方、県内視察バス旅行を行うなど団員同士の楽しい交流の場としても活用しています。

運営は、主に10名余りの役員が担っていますが皆ざっくばらんに意見を言い合える楽しい仲間。会議ではいつも笑い声があふれます。こうした気心の知れた仲間たちとフットワーク軽く活動できるのが、我々朝日丘奉仕団の一番の魅力ではないかと自負しています。

これからも皆で手をつないで、住みやすい、より良い社会を目指し、楽しく活動を続けて参りたいと思います。

四方赤十字奉仕団（富山市）

委員長　任海哲朗

当団は、昭和54年２月に富山市の北西部に位置する四方地区（人口３４００人）に結成され、昨年創立40周年を迎えました。ささやかではありましたが、節目の式典を行い歴代委員長さんへの感謝状贈呈や特別講演として「このゆびとーまれ」の惣万佳代子さんの楽しいまた大変参考になる話を聞くことが出来ました。

現在団員数１１０名でそのうちの24名が活動部員として奉仕活動を常時行っておりますが、活動の特色として青少年赤十字との協働を活発に行っている点が挙げられます。５月の在宅ひとりくらし高齢者訪問、７月の炊き出し訓練、年末のＮＨＫ海外たすけあい募金には四方小学校の生徒さんと一緒に活動を行っております。特にひとりくらし高齢者訪問に際しては、６年生が書いた作文を読みあげ、運動会への招待状と一緒に作文を手渡し高齢者とほほえましく触れ合う機会となっております。高齢者の中には涙ぐむ方もおり、子ども達の健全育成にも貢献しているものと思います。

青少年赤十字との協働は、子ども達を通して保護者の若い世代の皆さんに奉仕団活動を認識・理解してもらう機会であり、今後もしっかりと継続し、若い世代の団員獲得に努めます。

南砺市城端赤十字奉仕団

委員長　朝日田鶴子

県西部五箇山の裾野に位置し城端線終着駅玄関口が私たちの地域です。春は曳山祭り、秋には麦屋祭そしてアニメで若者達に人気のＰＡワークスが桜ヶ池にあります。

当団は、昭和60年２月に結成し団員は58人。主な活動として、まずは防災訓練が挙げられます。今年度は炊き出しと初めて「軽症者への手当訓練」を行い、みなさん真剣に取り組んでいました。ひとりくらし高齢者訪問は年２回訪問。高齢者の地域では重要な役割であり、いつかは我が身だと感じています。地域のボランティアネットワークにも参加しており、城端別院清掃奉仕や介護施設の運動会・納涼祭で入所者への車椅子補助などを行っています。また、当団結成時から継続している活動に、となみ総合支援学校との交流会があります。現在は年３回交流会をしています。訪問を楽しみに待っている生徒や先生方との交流は、私たちにとってもかけがえのない出会いであり、声援を送らずにはいられません。平成24年には厚生労働大臣表彰を受賞しました。これは当団の誇りでもあります。昨年６月には県支部と血液センターを視察訪問しました。

今後は団員同士の親睦と活動への理解を更に深めていきたいと思います。

研修旅行記

赤十字奉仕団 研修旅行に参加して

ともしび赤十字奉仕団　久保節子

7月4日朝7時30分、富山駅前南口から今回の研修旅行の参加者94名は、2台のバスに分乗して安曇野に向けて出発しました。九州方面での大雨被害が連日報道されている中、富山でも雨が降っていましたが、出発の頃にはあがっていました。

11時頃には安曇野に入り、程なくして禄山美術館に着きました。まず、蔦の絡まるレンガつくりのチャペルが印象的な禄山館の前で全員の記念写真を撮りました。禄山美術館は地元の安曇野出身で日本近代彫刻の先駆者となった萩原守衛（禄山）の作品と資料を保存公開し、禄山と関係の深い芸術家達の作品もあわせて収集保存されております。昭和33年、30万人の寄付と支援によって開館しました。私は彫刻の鑑賞方法や価値観など殆どわからないので、沢山の展示の中で重要文化財作品である「北條寅吉像」と「女」を念入りに鑑賞しました。

お昼は山岳リゾートホテル「アンビエント安曇野」で緑の北アルプスの景観をながめながらゆっくりと洋食ランチを頂きました。

村山ブルーベリー園では、フカフカの土壌に1m程の高さに剪定されたブルーベリーの木が一面に広がっており、大粒のブルーベリーがたわわに実っていました。大きくてお尻まで青紫色に完熟したブルーベリーを選び、めいっぱい食べてさわやかな酸味と甘みを楽しみました。採りかごの中は直ぐに一杯になり、お土産用パックから溢れた分は有料でお土産としました。

「安曇野ちひろ美術館」いわさきちひろは、にじみやぼかしを生かした独特な水彩画で大好きな子どもや花を沢山描いています。子どもらしいしぐさと表情は夢と愛に溢れ、描いた花々は80種を超え私たちをメルヘンの世界へと誘ってくれました。安曇野は信州出身の両親を持つちひろにとって幼い頃から親しんだ心のふるさとであり、共産党に入党してから松本善明と結婚し長男を出産。55歳で肝ガンの為に死去しています。青春時代に戦争を体験したちひろはとりわけ平和としあわせを願っていただろうと、生き方やその作品からも伺えました。

帰路につき、道の駅小谷でおみやげショッピングをした頃から雨がパラつきはじめ、バスの窓は雨でしたが、富山駅南口に到着した頃には雨も上がっておりました。無事に予定通り19時30分の到着でした。楽しい一日が過ごせました。ありがとうございました。

ボランティア保険について

日赤県支部が加入しているボランティア保険について、お知らせします。

不慮の事故（大小に関わらず）の際は、所属奉仕団委員長を通じ、市町村の日赤担当者と県支部へ報告して下さい。

○保障内容
・他者への賠償金　5億円
・自身の傷害　死亡・後遺障害　１２５４万円
　入院一日ごと　６３００円
　通院一日ごと　４２００円
○保障となる活動
・日本国内における奉仕団活動
（所属奉仕団及び日赤県支部が認めるもの）
※会議や研修会も含まれます。海難、山岳救助活動は対象となりません。

来年度に周年記念を迎える奉仕団

40周年
新庄赤十字奉仕団（富山市）
南砺市井波赤十字奉仕団

30周年
南砺市上平赤十字奉仕団

赤十字奉仕団結成状況

全国	地域赤十字奉仕団	2,126団	1,176,477人
	青年赤十字奉仕団	165団	7,055人
	特殊赤十字奉仕団	636団	33,296人
	計	2,927団	1,216,828人
富山県	地域赤十字奉仕団	53団	3,528人
	青年赤十字奉仕団	2団	66人
	特殊赤十字奉仕団	7団	158人
	計	62団	3,752人

山谷委員長を偲んで

2月12日、山谷美津子委員長（中田赤十字奉仕団）がご逝去されました。

山谷委員長は、平成7年度に中田奉仕団の委員長となられ、これまで、県副委員長、研修部会長、県支部評議員など数多くの重責を担われました。

強い責任感と優しく親しみやすいお人柄で、どんなときにも笑顔と女性らしさを忘れない可憐な方でした。

山谷さんが赤十字に捧げて下さいました多大なるご支援とご協力に深く感謝するとともに、心からご冥福をお祈り申し上げます。

（県支部奉仕団担当　塚本）